

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

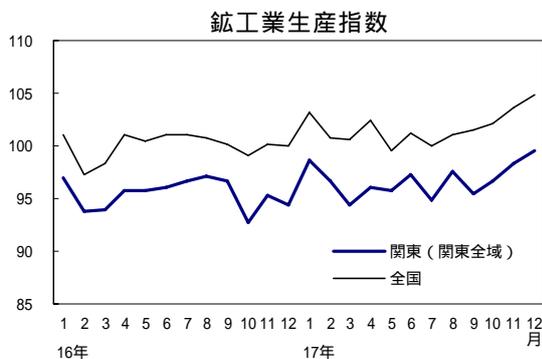
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 11 月)	今回 (平成 18 年 2 月)	
景況判断	緩やかに回復している	回復している	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
個人消費	持ち直しの動きがみられる	緩やかに回復している	
雇用情勢	改善	着実に改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、半導体製造装置が海外向けに、フラットパネルディスプレイ製造装置が国内外向けに堅調であったことから、4 四半期連続で増加した。化学は、石油化学品製造用触媒が海外向けに伸びたことなどにより、引き続き堅調で横ばいとなった。輸送機械は、排出ガスの新長期規制施行の影響もあり普通トラックが伸びたことなどから、3 四半期ぶりに増加した。情報通信機械は、新製品の発売に向けて携帯電話が伸びたことにより、3 四半期ぶりに増加した。電気機械は、半導体・IC測定器が海外向けに堅調であったことなどにより、3 四半期連続で上昇した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年12月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

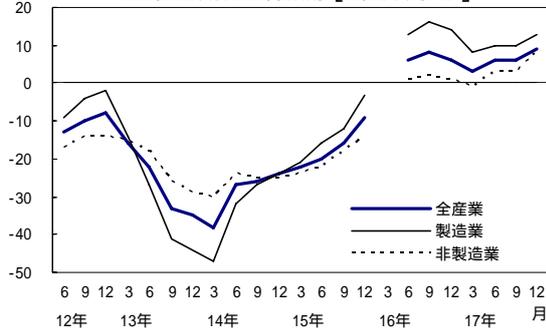
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	13.8	1.1	2.8	4.9	0.0
化学	13.7	0.0	0.0	0.3	2.4
輸送機械	11.3	9.7	1.9	4.8	10.1
情報通信機械	8.6	5.9	13.8	5.1	12.0
電気機械	7.9	2.5	3.1	2.5	7.1
鉱工業	100.0	0.3	2.3	3.1	0.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 10~12月期の化学の生産、出荷については、10月、11月確報値の平均より算出。在庫については、11月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

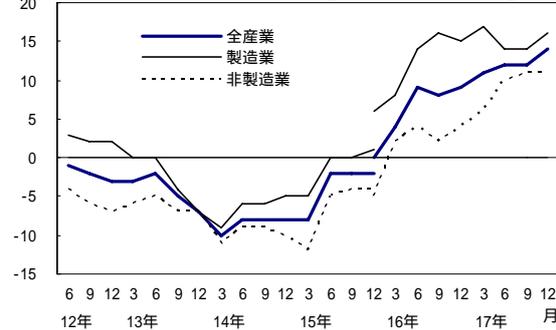
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)

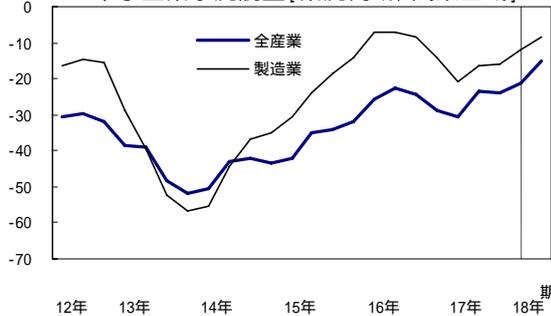
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「今までは取引先の会社の購入窓口から受ける注文が主であったが、最近は現場から直接の引き合いが増えており、多忙を極めている(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

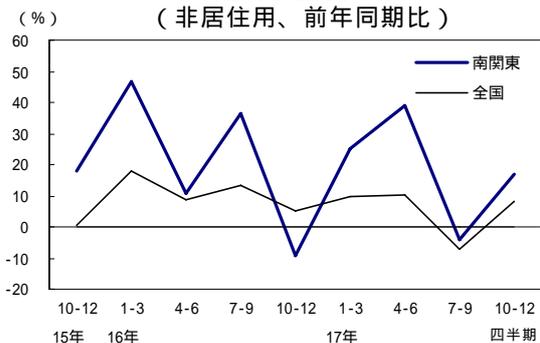
企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	23.0	26.1(1.8)
製造業	26.8	27.6(1.2)
非製造業	15.0	21.9(3.6)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

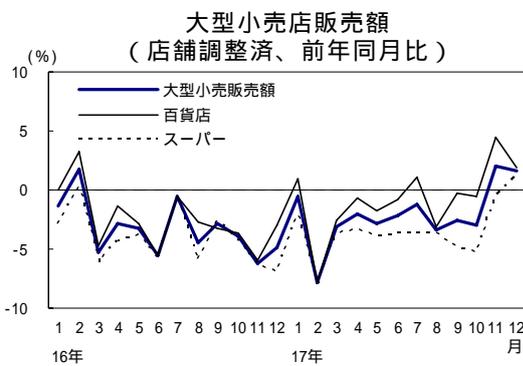
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、催事効果等により身の回り品等に動きがみられたが、気温が高めに推移したことから季節衣料の動きが鈍く、3か月連続で前年を下回った。11月は、気温の低下により冬物衣料が好調に推移したことに加え、催事効果等により身の回り品等にも動きがみられたことから、4か月ぶりに前年を上回った。12月は記録的な寒波によりコートやブーツ等の衣料品や身の回り品が好調に推移したことに加え、化粧品等のその他の商品にも動きがみられたことから、2か月連続で前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の1月の売上高は前年同月比0.1%増となっている。

スーパーは、11月以降の気温の低下により冬物衣料や暖房器具等の家庭用品に動きがみられたが、期を通じて主力の飲食料品が伸び悩んだことから、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

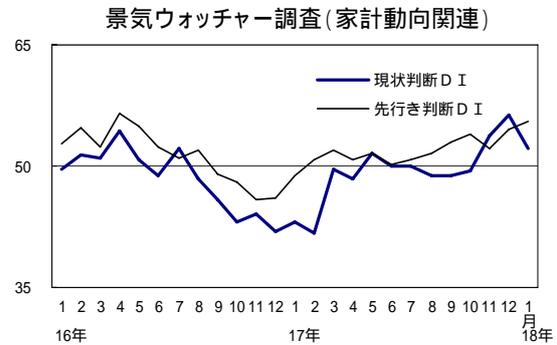
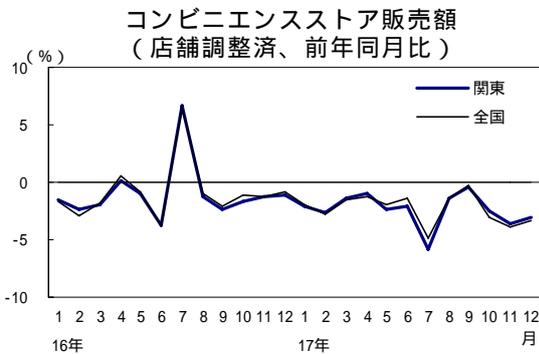
「1月は大寒波の影響で、煮物、鍋物等のホットメニューの動きが良く、客単価が多少回復し、来客数も前年を超えているため、売上が前年を上回っている。関東地方では21日に今シーズン初の積雪があったが、その前後の日が非常によく売れ、3日間の合計では大きくプラスになっている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	3.6	2.4	2.3	0.3
百貨店	2.9	1.1	0.5	1.9
スーパー	4.4	3.6	4.0	1.4
コンビニ	2.1	1.8	2.6	3.0
景気ウォッチャー	44.8	50.0	49.2	53.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。17年10-12月期は速報値。コンビニは関東全域。

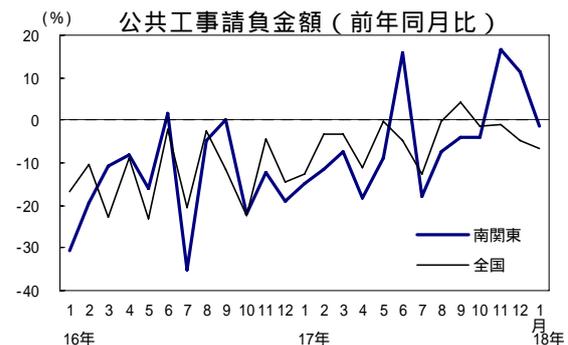
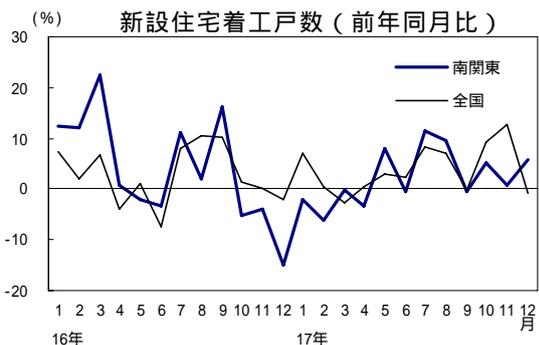
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、分譲、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

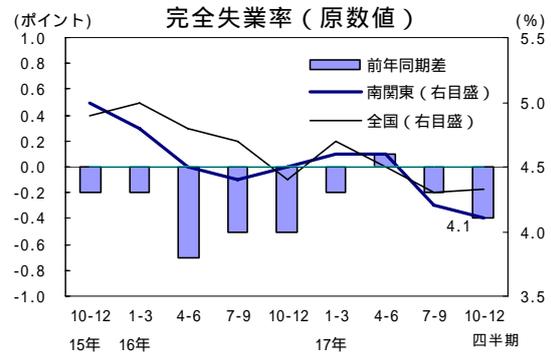
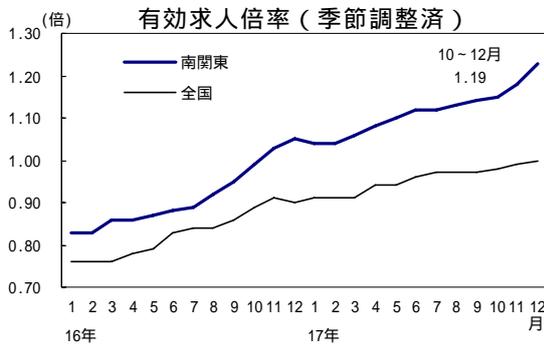


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

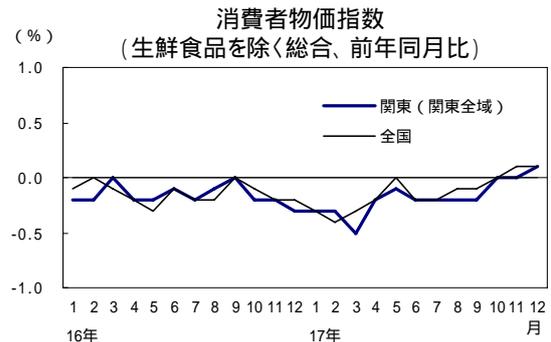
「派遣や短期雇用で働いていた求職者が継続雇用やより長い期間の雇用を求めており、こうした要求に沿うように求人会社の雇用契約形態が多様化している(民間職業紹介機関)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	18年1月
倒産件数	940	915	897	944	316
(前年比)	19.8	14.9	16.9	6.3	10.1
負債総額	6,518	4,466	4,539	9,657	2,054
(前年比)	49.4	40.8	37.4	36.4	95.4



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・一般の派遣社員に加えて、エルダー層、新卒、ビジネストレーニー、第2新卒にいたるまで、幅広く求人がきている(人材派遣会社)

<先行き>

・売上、来客数共に一時的に落ち込みが出ているが、絵画やオーダーの骨壺など、1千万円超の高額品が一部で動くなど、こだわり消費の落ち込みはみられない(百貨店)

景気ウォッチャー調査(家計動向関連)

